

大津町議会 広報編集特別委員会研修報告

氏名 清原 さおり

視察研修名：全国町村議会広報研修会

研 修 先：東京都渋谷区 渋谷公会堂 (LINE CUBE SHIBUYA)

期 日：令和7年8月28日(木)～29日(金)

研修テーマ：①インタビュー記事を足して読まれる広報紙にしよう
②スマートフォンを活用した撮影技術・動画作成の基本
③議会活性化と連動した広報紙づくり

研修報告 意見・感想

1) 「インタビュー記事を足して読まれる広報紙にしよう」

講師：インタビューライター 丘村奈央子 氏

前職で取材・記事作成の経験があったため、取材活動については理解しているつもりだった。しかし、インタビューライターである丘村講師の講話を拝聴し、まだ深められる部分が多くあることを痛感した。取材活動は事前準備で8割決まると言っても過言ではない。講話の中で「大まかなレイアウトまで含めて編集方針を決め、その上で取材に臨む」という話があり、大変参考になった。記事設計フォーマットの資料も添付されていたので、今後取材の機会があれば活用したい。

ただし、当町議会だよりの編集方針を鑑みると、今後インタビュー記事を掲載していくかは検討課題である。本来、議会だよりは議会での協議・決議の内容や活動を町民に分かりやすく広報するものだと考える。「読まれる広報紙にする」という大前提は踏まえつつも、「議会広報とは何か」という軸をぶれさせることなく、記事内容をブラッシュアップしていきたい。

2) 「スマートフォンを活用した撮影技術・動画作成の基本」

～一人でもできる撮影ノウハウ、インタビュー撮影技術～

講師：映像講師・映像ディレクター 渡川修一 氏

本研修は「地方議会でも SNS 等を活用し、動画というツールで広報活動の幅を広げる」という趣旨で行われたと理解している。現在、当町でも議会改革推進特別委員会が発足し、SNS やホームページ活用について協議が進んでいるため、大変参考になった。

渡川講師は冒頭で「動画や写真撮影に自信がない人が、センスがないからと言うが、まずはルールに則って撮影することが大切」と話され、強く共感した。発信には責任が伴い、ルールやマナーを守ることが大前提であると改めて認識した。

その後、スマートフォンでの基本的な撮影方法が紹介され、普段何気なく見ている動画も、見せ方を意識して撮影されていることに気づかされた。人物をアップで撮ると圧迫感があること、背後に余白を持たせることなど、知らなかった点ばかりで学びが多かった。

また、二次元媒体である写真・広報紙と、三次元媒体である動画との違いについても説明があった。動画は声色や雰囲気、その人らしさを伝えられるツールであり、今後当町議会で動画を活用する際の大きな参考となった。

3)「議会活性化と連動した広報紙づくり」～住民の政治参加を促すツールに～

講師：大刀洗町議会 議会広報委員長 平山賢治 氏

広報紙にとどまらず、長年にわたる議会活性化の取組みが重厚で、1時間があったという間の講話だった。大刀洗町議会は視察申し入れが非常に多く、今年度は既に締め切られていると聞き、今回の研修は大変貴重な機会であった。

特に印象に残ったのは「(広報紙の) ネタは議会がつくる」という言葉である。第1の研修報告でも触れたが、議会広報の中心は議会活動を伝えることであり、その軸がぶれると広報紙の意味を失うと考える。そのことを端的に表現したのがこの言葉である。

また、発行根拠となる法令の確認があり、議会広報が法令に基づいて発行されていることを再認識した。編集の流れについても詳細に説明があり、配布資料とともに今後の参考にしたい。特に手書きのラフ案まで作成されている点に驚かされた。

さらに、広報委員会だけでなく議会全体で「議会報告会」を実施されていることに注目した。その活動が結果として広報のネタとなっている。当町においても改革推進特別委員会の管轄になるかもしれないが、協議を進めていく必要がある。

最後に「広報紙は究極のプッシュ型媒体」という言葉にハッとさせられた。当町も同様であり、まずはこの究極のプッシュ媒体である広報紙を最大限に活用することが先決だと確信した。

総括

3つの研修はいずれも内容が充実しており、大変有意義な研鑽の場となった。他町村議員との交流もあり、非常に良い機会だった。この学びを今後の活動に活かしていきたい。